

〇プランづくりに委員の参画を依頼

(京都府綴喜郡井手町地区連絡会議)(第7回)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他
(農業委員会の
体制強化等)

1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 令和元年11月12日午前10時30分～
- 場 所: 井手町自然休養村管理センター
- 出席者: 委員11人
事務局 菱本事務局長、坂井担当
- 報告者: 今井 農業会議現地推進役

写真・図面
(地区連の写真又は
必要に応じた活動の写真や図面)

2 地区の特徴、状況、課題

- 本町の西側を木津川が南北に流れ、東側には山地が広がり、中央部にJRが南北に走っている。
- 農地は、主に木津川とJRに挟まれた平坦部に広がり、米を中心に筍、茶が栽培されている。
- 担い手が少なく、高齢化により、ほ場条件の悪い山手の農地で遊休化が進んでいる。



3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 井手町農業委員会では、10a以上の農地を耕作する農家を対象としたアンケートについて、現時点の回収率が66%程度であることを報告した。
- 事務局から、農業従事者のうち70歳以上の割合が井手地区は66%、多賀地区は60%と高く、また5年後の経営意向は専業及び農業所得を主とした兼業の割合が2割以下と低いなどアンケート結果の概要が報告された。
- また、10年後の地域農業については、9割の農家が「問題がある」と回答し、その主な理由は、「農業従事者の高齢化」、「後継者不在」による耕作放棄地の増加、「有害鳥獣被害」による営農意欲の減退としている。
- 今後、アンケート結果を活かし、地図づくりと話し合いにより、京力農場プランの実質化に取り組むので、地図づくりや話し合いの場の設定、参加などへの委員の主体的な参画をお願いした。

4 活動結果

- 情報・意見交換 ↑ 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援